

先週の回答



「金枝」は黄金の枝。「玉葉」は子孫という意味らしい。つまり黄金に輝く枝に玉のような子孫が雅に脈々と受け継がれていく皇室を「金枝玉葉」というようだ。

わたしは不敬にも神武天皇よりつづく皇室についての知識に欠けている。下のわたしが雲の上を知らないのは当然であるが、垣間見るに同情する、ご皇室に入られるかたを。

現明仁天皇にお輿入れした現皇后美智子妃の華燭の典は覚えている。浴道の日丸の小旗が埋めつくすなか馬車の中から手を振る美智子さまは、嬉しそうに見えなかったのを記憶している。

皇室で育ったなら別だが、民間で育ったお嬢さんがどこぞのテニスコートで

見染められて、一夜にしてシンデレラ姫のように騒がれたが、本人はシンデレラになんかなりたくなかつたのではないかと、恋人もいたのではないかと、自由に青春を伸び伸びと謳歌したかったのではないか、突如悪夢に襲われた気持ちだったのではないか、なんて当時のわたしは邪推したものだ。

四六時中、侍従に付き添われて、ことば遣いはもちろん箸の上げ下ろしから一挙一動を監視され窮屈この上なし。欠伸（あくび）もオナラもできず、昼の生活はもろろん夜の夫婦生活も見張られているような生活に耐え忍ぶのは並大抵ではないのではないかと、想像するだにわたしは同情を禁じ得なかつたのを覚えてる。

現皇太子の徳仁親王も、皇太子妃に民間から雅子さまを選んだが、わたしはこのかたもうつ病になりかかつたのは、さもあらんと思う。

皇后美智子さまが「あんたもツイてないわねえー、あたしも初めは気詰まりでかなわなかつたわよ。たまにはラーメンやお茶漬け食べたかつたわよ」に雅子さまが「あたしは冷奴で一杯やりたくなるのよ」「何しろ友だちも呼べないんだから」「お笑い番組見れないし」「トイレにまで誰ぞ付いてくるんだから」「やってられないわよねえ、お義母さま」でも、だんだん慣れてくるから辛抱しなさい」「それっきゃないわねえー」なんて愚痴が言い合えれば、少しは気が晴れるだろうけど、何しろ金枝玉葉だからそうはいかない。



